

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年7月号)

2024/6/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは5月31日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		6月26日現在	7月の予想 (月末値)		
USD	ドル・円 (円)	160.81	155.0	～ 165.0	158.0
	日銀の量的引き締めへの警戒から徐々に上値の重い展開に				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.068	1.05	～ 1.08	1.07
	ユーロ・円 (円)	171.75	163.0	～ 173.0	169.1
	ECB追加利下げ観測後退もフランス政局不安から大幅下落リスクはらむ				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.262	1.24	～ 1.29	1.26
	ポンド・円 (円)	202.99	197.0	～ 207.0	199.1
	夏場の利下げ開始観測と欧州政治リスクから上値の重い展開か				
AUD	豪ドル・円 (円)	106.91	103.0	～ 108.0	106.0
NZD	NZドル・円 (円)	97.76	94.0	～ 99.0	97.0
中銀のタカ派姿勢継続でオセアニア通貨は高値でもみあい					
株式 相場	日経平均 (円)	39,667	37,000	～ 40,000	38,500
	保守的な会社計画を受け、レンジ相場が続くとみる				
	NYダウ (ドル)	39,128	37,000	～ 41,000	39,500
期待先行での株価上昇は一服しよう					
長期 金利	日本 (%)	1.020	0.95	～ 1.20	1.150
	月末の決定会合での国債買入削減が意識され金利は上昇				
	米国 (%)	4.329	4.10	～ 4.60	4.300
現在の水準は概ね妥当値。基本的にはレンジ圏での推移を想定					

◆ 今月の注目ポイント

欧州政治リスクは要注意、日銀決定会合に注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
政治	◎	【6月30日 仏下院選挙 7月7日 決選投票】世論調査によると極右の国民連合（RN）が第一党となる可能性が高く、極右政権の誕生の公算が大きくなっている。極右政権は財政拡張の政策スタンスであり、財政規律への懸念からフランスの株・債券売り、ユーロ売りに繋がる可能性があり要警戒。国民連合（RN）は反EUを掲げており、将来的にEU離脱が想定されるようであれば、一段とリスクオフの動きが強まろう。
	◎	【31日 日銀金融政策決定会合】6月の決定会合では、長期国債買入れを減額していく方針が決定されたが、詳細は7月の会合に持ち越された。植田総裁は減額は「相応の規模になる」と発言しており、事前の報道などにより長期金利が上昇する可能性があり注意。
金融政策	○	【31日 FOMC】6月のFOMCで公表されたFRBメンバーの金利見通しでは年内の利下げは1回に減少しややタカ派の印象。6月に公表された米経済指標は軒並み弱く、FRBのスタンスに変化があるか注目。

◆ アジア通貨見通し

	6月26日現在	7月の予想 (月末値)		
人民元・円	22.03	21.50	～ 22.50	⇒ 22.20
バーツ・円	4.352	4.20	～ 4.40	⇒ 4.30
ルピア・円	0.980	0.95	～ 1.00	⇒ 0.98

◆ 今月の重要日程

1日 (月) 日 日銀短観	16日 (火) 米 6月小売売上高
1日 (月) 米 6月ISM製造業	18日 (木) 欧 ECB理事会
3日 (水) 米 6月ISM非製造業	19日 (金) 日 6月CPI
5日 (金) 米 6月雇用統計	26日 (金) 米 6月PCEコアデフレータ
8日 (月) 日 5月毎月勤労統計	31日 (水) 日 日銀金融政策決定会合
11日 (木) 米 6月CPI	31日 (水) 米 FOMC

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

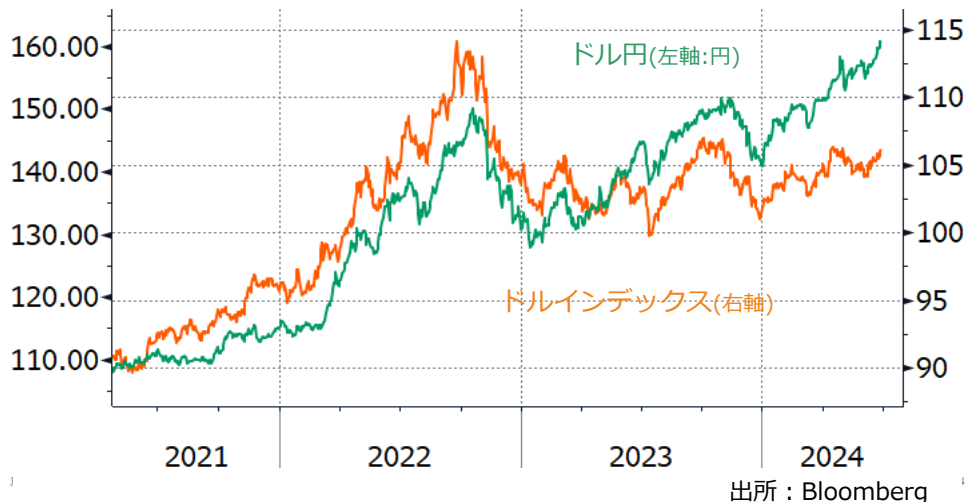
(2024年7月号)

2024/6/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円

155.00 – 165.00円

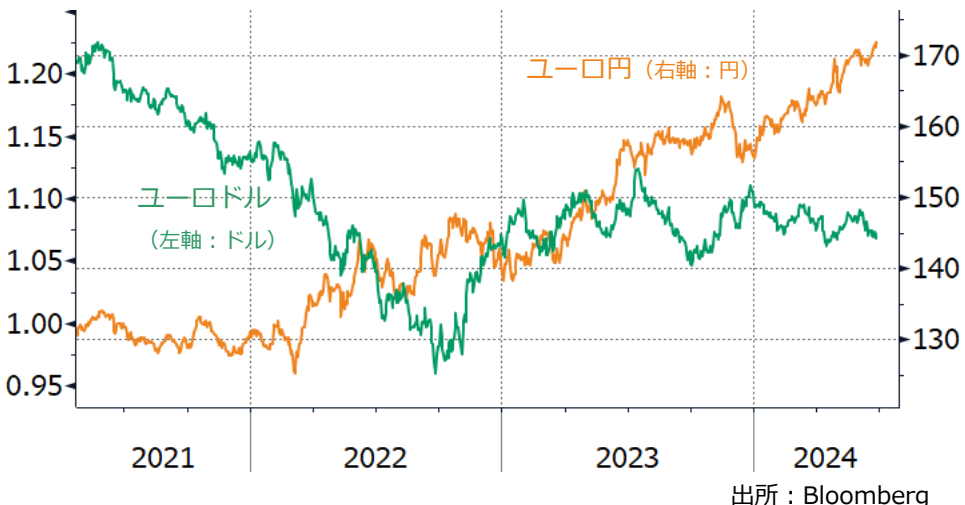
日銀の量的引き締めへの警戒から徐々に上値の重い展開に

6月のドル円相場はメキシコやインドの政治不安からメキシコペソやインド円が売られ、ドル円も一時155円割れに下落。しかし、その後はボラティリティの落ち着きから円キャリートレードによる円売りフローにより、AUD円やGBP円などのクロス円が力強く上昇する中、ドル円もじり高基調が継続し、約37年半ぶりとなる160円台後半に上昇した。

7月のドル円は、引き続き円キャリートレードに伴う円売りフローに前半は底堅い展開を見込む。但し、先月より欧州政治リスクが台頭していることや、月末に日銀金融政策決定会合を控えていることから、徐々にドルの上値が重くなる展開を予想する。

6月の決定会合では、長期国債買入れを減額していく方針が決定されたが、詳細は7月の会合に持ち越された。植田総裁は減額は「相応の規模になる」と発言しており、減額計画次第では国内長期金利が上昇する可能性がある。市場参加者の意見も確認するとしていることから、徐々に計画が伝わる可能性もあり、関連報道には留意が必要。量的引き締めに移行すると見られる中、徐々に円キャリートレードのフローは細っていく可能性がある。

ユ ー ロ



ユーロドル

1.05 – 1.08ドル

ユーロ円

163.00 – 173.00円

ECB追加利下げ観測後退もフランス政局不安から大幅下落リスクはらむ

6月はECBが市場予想通りに0.25%の利下げを実施。追加利下げに関しての言及はなく、また特定の金利軌道を事前に確約しないと繰り返し述べるなどタカ派的な結果となったことからユーロは堅調に推移した。しかし、直後の欧州議会選で右派が台頭した結果を受け、マクロン大統領がフランスの国民議会を解散。世論調査では極右政権の政権奪取が目されており、財政規律の緩みに対する懸念からユーロは大きく売られた。

7月のユーロは上旬にかけては特にボラティルな展開への警戒が必要とみる。フランスの極右政党・国民連合が財政規律を意識した融和的な姿勢を表明していることもあり、足元はいったん対ドルの相場は落ち着きを取り戻している。しかし、7日に決選投票が実施され結果が判明するフランス議会選において、仮に極右あるいは極左政党が過半数議席を獲得するようなことがあれば、再度の大幅なユーロ安は避けられないだろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

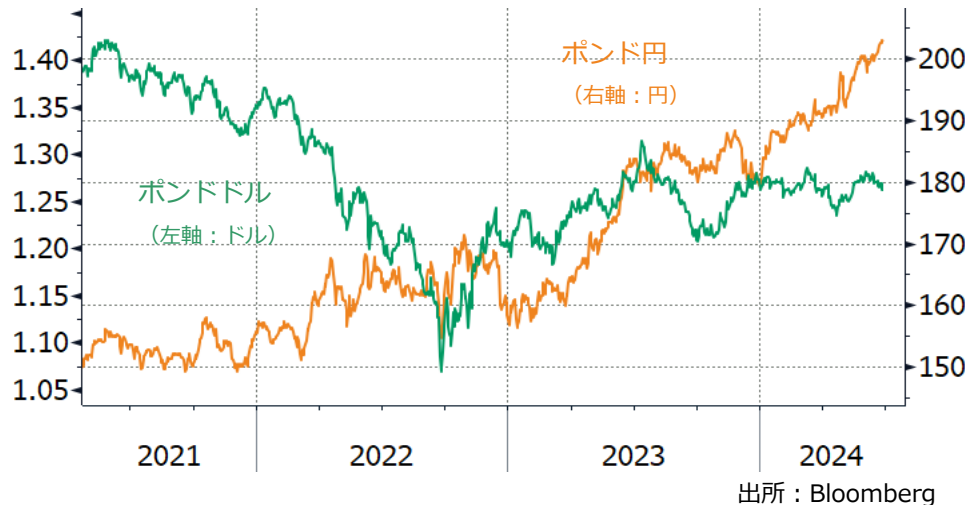
(2024年7月号)

2024/6/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



ポンドドル

1.24 – 1.29ドル

ポンド円

197.00 – 207.00円

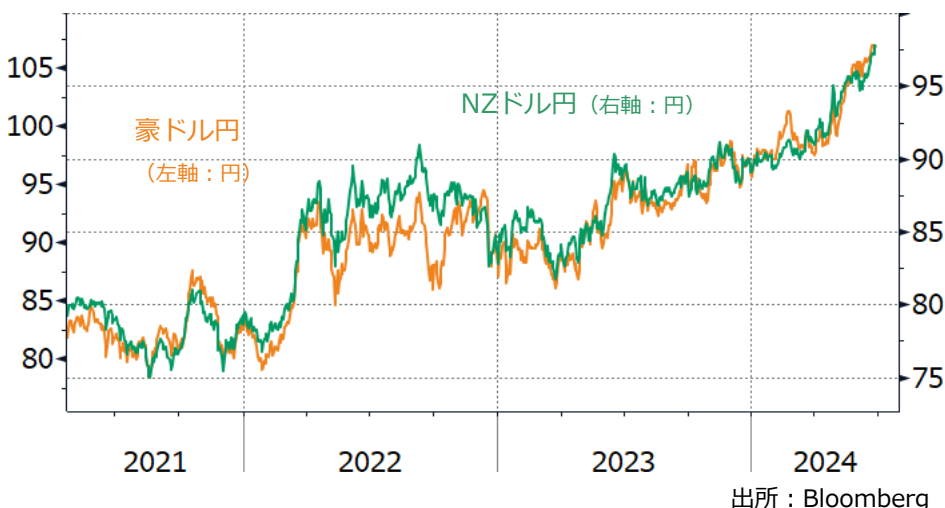
夏の利下げ開始観測と欧州政治リスクから上値の重い展開か

6月のGBPは対USDで下落。欧州議会選挙での右派躍進と仏下院解散を受けて欧州政治リスクが急速に台頭しポンドも上値が重くなった。一方で、ポンド円は円キャリートレードと見られる円売りフローを背景に底堅い展開が続いた。

7月のポンド円は前半は引き続き円キャリートレードのフローに支えられ底堅いが、後半は欧州政治リスクと月末の日銀決定会合への思惑から徐々にポンドの上値が重くなる展開を見込む。

先月のBOE会合は、据え置きが決定された。CPIは前年比2%まで低下したが、粘着性の強いサービス物価は同5.7%と高止まりしており、利下げの判断には至らなかった模様。引き続き8月か9月の利下げを見込む。7月4日の総選挙はマーケットへの影響は限定的となりそう。月末の日銀決定会合では、量的引き締めが開始される予定であり、国内長期金利が上昇しやすくなると思われ、ポンド円は徐々に上値が重くなると予想する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

103.00 – 108.00円

NZドル円

94.00 – 99.00円

中銀のタカ派姿勢継続でオセアニア通貨は高値でもみあい

6月のオセアニア通貨は対ドルではほぼ横ばいであった一方で対円では上昇した。豪中銀の金融政策決定会合において、5月と同様に利上げの検討があったことがタカ派的であると受け止められ年内の利下げ観測が一層後退。対日金利差の拡大した状況がより長続きするとの見方が強まり、円キャリートレードが活発化したことが背景にあるとみられる。

7月のオセアニア通貨は、引き続き高値圏だが徐々に上値は重くなると予想する。引き続き対日金利差を背景とした円キャリートレードが活発に行われ円安圧力がかかるが、ドル円が160円を超えて円安が進行すれば為替介入への警戒感が増してくる。また、月末には日銀金融政策決定会合が予定されており、今後の具体的なQTの指針が決定されるとみられるほか、追加利上げの可能性もゼロではない。月末にかけて徐々に日銀金融政策転換への警戒感が増し豪ドル円の上値も重くなってくることが考えられるほか、会合が追加利上げの実施も含めたタカ派的な結果となれば大きく円高に振れるなどボラタイルな展開となる可能性も。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

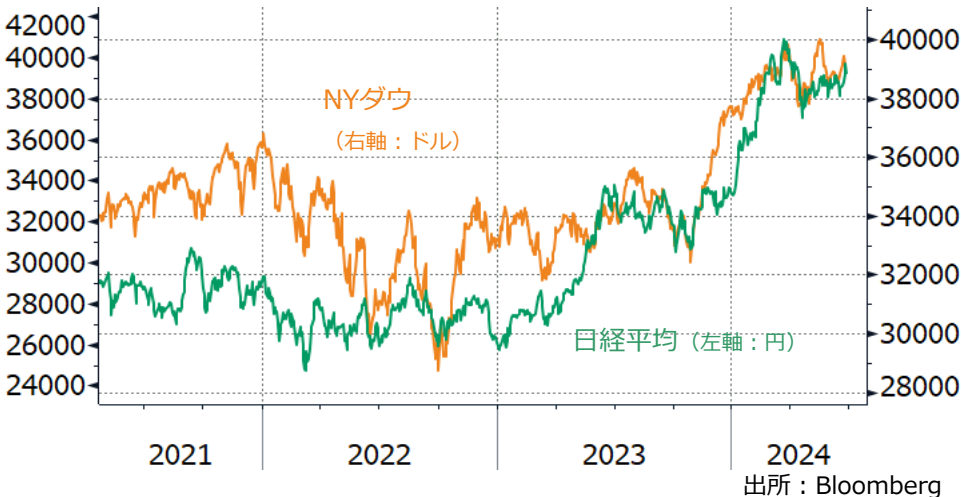
(2024年7月号)

2024/6/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

37,000 – 40,000円

保守的な会社計画を受け、レンジ相場が継続するとみる

引き続き、弱気な会社計画を受け様子見姿勢が続くと考え。弱気な会社計画は、年初来日本株を大きく買い越してきた海外投資家に、利益確定売りを促す材料となった。もっとも、その裏側で個人やGPIFが買い支えているため、上にも下にも大きくは動かないレンジ相場が形成されている。株価は38,500円程度を中心に一進一退での推移を見込むが、日銀の政策修正時期の織り込み次第では、金利上昇で株価は調整し、37,000円程度まで下落する可能性もある

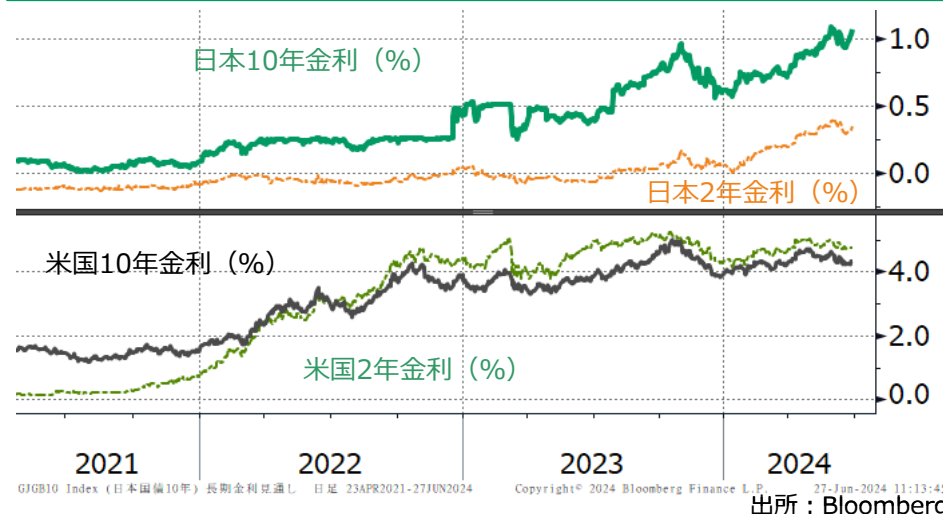
NYダウ

37,000 – 41,000ドル

期待先行での株価上昇は一服しよう

米マイクロンの決算は実績は市場予想を上回ったが、保守的な先行きが嫌気され、期待先行で株価が大きく上昇していたこともあり、大幅下落となった。同社の高性能メモリはエヌビディアのGPUが搭載されるAIチップに使用されているため、ハイテク株の先行きを占う先行指標として、市場では同社の決算に注目が集まっていた。悪くない決算であったが、期待先行での株価上昇は一服し、株価は39,000ドル程度を中心に一進一退での推移を見込む

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

0.95 – 1.20%

月末の日銀決定会合での国債買入削減に向けて金利は上昇へ

日銀は6月14日の決定会合で、次回（7月31日）会合で今後1～2年の国債買入の減額について具体策を公表するとした。6月会合で具体策が決まるとの期待が高かったことから、会合直後に金利は低下したものの、植田総裁の記者会見では「相応規模の減額になる」との方針が示された。日銀の大規模緩和は巨額の国債買入がその下支えとなってきたこともあり、次回会合で決定される国債買入の減額は、金融政策の本格的な転換点となるだろう。

米国債10年

4.10 – 4.60%

現在の水準は概ね妥当値。基本的にはレンジ圏での推移を想定

各種インフレ指標が落ち着きを見せたこと等から、9月利下げ開始との見方が強まり、米金利は5月末から低下した。もっとも、依然として米景気は堅調と見ており、年内利下げ回数は1回の可能性が依然として高いと考えている。現在の金利水準は、利下げ回数の織り込みからは妥当だが、経済指標の強含みで織り込みが変化し、金利が上昇するリスクには留意。特に、インフレ鈍化に重要な賃金や家賃には然程鈍化の兆しが見えない点を懸念している。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

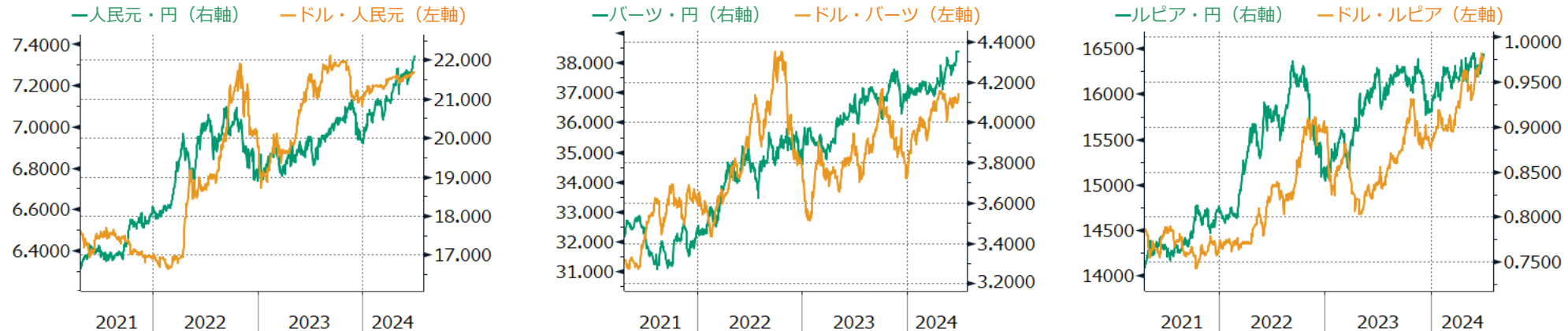
りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年7月号)

2024/6/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		6/27	7月の予想	見通し
中国	人民元/円	22.03	21.50 ~ 22.50	市場は中国人民銀行による量的緩和の可能性を注視 6月は米国の5月分のCPIが予想を下回る結果となり、米国の利下げのタイミングが意識されドル人民元が下落する局面もあった。しかし、中国人民銀行が国債売買を通じた資金調節を財務省と協議していると報道があり、中国での量的緩和の導入が意識されたことで、ドル人民元は6月後半にかけて大きく上昇した。主要な経済指標からは中国景気の底入れの兆しが見えているものの、中国当局による緩和強化の可能性によって、ドル/人民元は下落しにくい状況が続くそう。
	ドル/人民元	7.29	7.25 ~ 7.35	
タイ	バーツ/円	4.352	4.20~4.40	政治的不透明感の高まりからバーツ安進行を予想 6月のドル/バーツは、米国で各種インフレ指標が市場予想を上回る等したことで米金利が低下したものの、タイ元首相タクシン氏が王室への不敬罪で起訴されるなど、政治的不透明感の高まりによるリスク回避売りが入り、レンジでの推移となった。自国通貨安への懸念からFRBより前に利下げには転じ辛く、政治不安もある中では、バーツ買いには転じづらい。7月のドル/バーツはややバーツ安が進行しやすさそう。
	ドル/バーツ	36.95	35.5~37.5	
インドネシア	100ルピア/円	0.980	0.95~1.00	ドル高に加えて内政混乱がルピア安を助長 ドル高基調に加え、首都庁長官らの辞任などの内政混乱もあいまってルピア安が進行。中銀は為替介入を実施し対円では大きく円安が進んだ。今後も為替動向は米国等の外部環境に大きく左右されるなか、FRBによる利下げ時期が見えてくるまでは一進一退の状況が続くだろう。
	ドル/ルピア	16,410	16,100~16,700	



◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年7月号)

2024/6/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年		2025年		ポイント
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
ドル円	レンジ	150～165	145～160	140～155	140-155	日米金利差は縮まらずドル円は底堅い展開が目先は続くが、日銀の追加利上げやFRB利下げ観測が強まる秋ごろから徐々に上値の重い展開に。
	期末値	155	150	145	145	
ユーロドル	レンジ	1.05 ～ 1.10	1.00 ～ 1.10	1.03 ～ 1.13	1.05 ～ 1.15	フランス政局不安について、メインシナリオでは極右の国民連合が第一党となるも過半数には及ばず、融和的政策を取ると予想されることからユーロの下落は限定的となろう。長期的には、景気回復や緩やかな利下げパスからユーロが強含みする展開を見込む。
	期末値	1.08	1.06	1.08	1.10	
ユーロ円	レンジ	162 ～ 175	150 ～ 170	145 ～ 165	150 ～ 170	夏頃よりBOEの利下げや日銀の追加利上げが強く意識され始めることから、ポンド円は徐々に上値が重くなる公算。BOE、FRBともに利下げサイクル入りする2025年前半のポンドドルはレンジ推移を見込む。
	期末値	168	160	157	160	
ポンドドル	レンジ	1.19～1.31	1.17～1.29	1.20～1.32	1.20～1.32	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しつつあり、人民元安を容認する姿勢を示している。景気支援策や不動産市場支援策による中国経済の回復はありながらも、ドル人民元が下落するのはFRBが利下げを開始してからになる。
	期末値	1.25	1.22	1.25	1.25	
ポンド円	レンジ	180～210	175～200	171～191	171～191	豪中銀の利下げ開始はFEDよりもさらに遅れる見通し。グローバルの製造業景況感が回復すれば、24年度後半以降は対ドルでさらに底堅い動きとなりそう。
	期末値	193	185	181	181	
ドル人民元	レンジ	7.20 ～ 7.35	7.10 ～ 7.30	7.00 ～ 7.20	6.90 ～ 7.10	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	7.30	7.20	7.10	7.00	
人民元円	レンジ	20.45 ～ 22.30	20.45 ～ 22.20	20.10 ～ 22.10	20.30 ～ 22.40	
	期末値	21.23	20.83	20.42	20.71	
豪ドル円	レンジ	100.00～108.00	98.00～106.00	96.00～104.00	96.00～104.00	
	期末値	104.00	102.00	100.00	100.00	
タイバーツ円	レンジ	3.50～4.50	3.50～4.50	3.70～4.80	3.70～4.80	
	期末値	4.15	4.20	4.35	4.35	

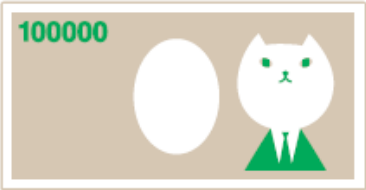
◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年7月号)

2024/6/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
7/1(月)	4-6月期日銀短観	6月ISM製造業景況指数	(中) 6月製造業PMI
7/2(火)	10年債入札		
7/3(水)		5月製造業受注	
		5月貿易収支	
		6月ADP雇用統計	
		6月ISM非製造業景況指数	
		FOMC議事要旨	
7/4(木)	30年債入札	(独立記念日)	
7/5(金)	5月家計調査	6月雇用統計	
7/8(月)	5月毎月勤労統計 (速報)		
	6月景気ウォッチャー調査		
7/9(火)	5年債入札	3年債入札	
7/10(水)	6月企業物価指数	10年債入札	(中) 6月CPI
7/11(木)	20年債入札	30年債入札	(中) 6月貿易統計
	5月機械受注	6月CPI	
7/12(金)		6月PPI	



	日本	米国	その他
7/15(月)	(海の日)	7月NY連銀製造業景況指数	(中) 4-6月期GDP
			(中) 6月生産・小売・投資
7/16(火)		6月小売売上高	(独) 7月ZEW景況指数
7/17(水)		20年債入札	
		6月住宅着工・許可件数	
7/18(木)	6月貿易統計	7月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(欧) ECB定例理事会
7/19(金)	6月消費者物価指数		
7/22(月)			
7/23(火)		2年債入札	
		6月中古住宅販売	
7/24(水)	40年債入札	5年債入札	(欧) 7月PMI (速報値)
		6月新築住宅販売	
7/25(木)		4-6月期GDP (速報値)	(独) 7月IFO企業景況感指数
		7年債入札	
7/26(金)	2年債入札	6月個人所得・消費支出	
7/29(月)			
7/30(火)	6月労働力調査	7月消費者信頼感指数	
7/31(水)	6月鉱工業生産	7月ADP雇用統計	(中) 7月PMI
	6月住宅着工件数		
	植田日銀総裁定例会見		

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年7月号)

2024/6/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【5/17～5/23】

◎ 昨年都市部平均賃金12 万元、伸び率は過去最低

中国国家统计局によると、中国本土の都市部企業・機関（個人企業等除く）で働く労働者の2023 年の平均賃金は12 万698 元だった。前年比の名目上昇率は5.8%で、前年の6.7%を0.9 ポイント下回り、国家统计局のデータベースに記録がある2000 年以降で最低となった。23 年は新型コロナウイルスの影響消失とそれに伴う景気の急回復が期待されていたが、賃上げは当初の予想ほど活発化しなかった。ただ、宿泊・飲食等対人接触型サービス業の上昇率が大きく回復した。外国資本の企業の平均賃金は前年比8.7%上昇し、14 万9,130 元だった。地域別では、東部の賃金上昇率が最も低く、賃金格差が縮小する方向へ向かっている。

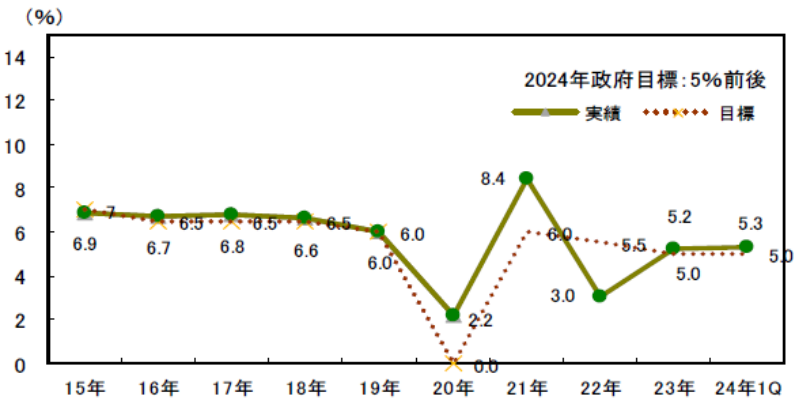
【5/24～5/30】

◎ 自動車1 台当たりの利益減少、価格下落

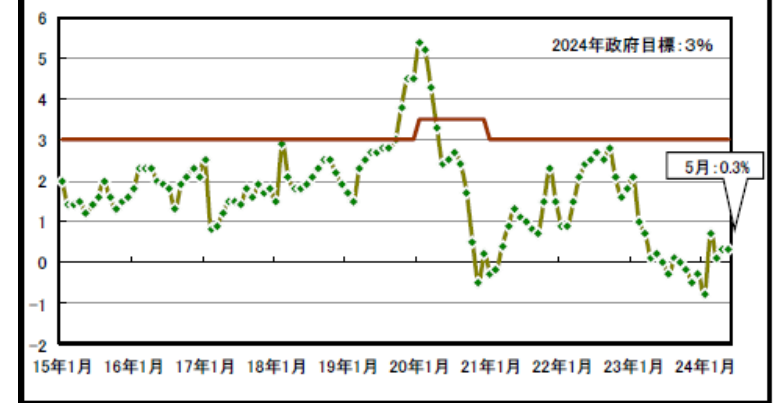
中国自動車業界の自動車1 台当たりの純利益が下がり続けている。中国の自動車アナリストが発表したレポートによると、2024 年1-4 月は1 万6,000 元（約34 万7,300 円）で、17 年通年の2 万3,000 元から30%減った。

17 年以降一度も前年比で増えていない、特に23 年以降の落ち込みは顕著で、近年の価額競争が収益環境を悪化させていることが浮き彫りとなった。ただ、業界の全ての企業が生産性低下ではなく、中国NEV 最大手の比亞迪（BYD）は、23 年の1 台当たりの純利益が前年比で11.7%増えた。苦しんでいるのは主に下位メーカーと見られ、下位メーカーの淘汰が今後進む見通し。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年7月号)

2024/6/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【5/31～6/6】

◎ **ビザ申請が前年比2 倍で推移、海外旅行本格回復へ**
中国人の海外旅行熱が本格的に回復している。中国旅行最大手の携程集団（トリップドットコム・グループ）によると、同社の観光査証（ビザ）代理取得事業の受託件数は4月以降、前年同期比2 倍で推移。インターネット通販の年央セール「618」も海外旅行者の増加に寄与している。中でも訪日旅行の人気は非常に高く、訪日観光ビザの受託件数は前年同期比6 倍、19 年同期比4 倍のペースで推移している。日本政府観光局によると、1-4 月の訪日中国人は186 万人で、前年同期比7.4 倍だった。今後、訪日中国人は更に増加する見通し。

【6/7～3/13】

◎ **連休に住宅政策の効果鮮明、中古の販売増**
中国人民銀行（中央銀行）が5 月17 日に発表した住宅購入促進策の効果端午節連休（6 月8-10 日）に表れた。住宅の内覧者は増え、深セン、上海等の主要都市の中古住宅の取引も増加した。ただ、新築住宅の販売は前年の端午節連休を下回る結果となった。中国指数研究院によると、端午節連休の主要30 都市の新築住宅販売面積は前年同連休比16%減少。30 都市のうち20 都市がマイナスだった。住宅価格の先高観がなくなった中、割高な新築に手を伸ばそうとする人は少なく、住宅在庫の消化は進んでいない。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5
実質GDP成長率	%	-	-	4.9	-	-	5.2	-	-	5.3	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.3	0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	0.3	0.3
都市部調査失業率	%	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.1	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0
輸出額	10億ドル	280.8	283.8	296.5	274.2	292.6	303.3	306.9	219.9	279.5	292.1	302.3
輸入額	10億ドル	201.4	216.6	221.3	218.3	223.6	228.5	222.3	180.6	221.0	219.9	219.7
経常収支	100万ドル	-	-	196,796	-	-	252,996	-	-	39,200	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8	3,245.7	3,200.8	3,232.0
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.19	7.25	7.30	7.31	7.22	7.14	7.17	7.19	7.20	7.24	7.23

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年7月号)

2024/6/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国、若者の「悦己消費」

2010年頃、村上春樹の小説で生まれた「小確幸（日常生活で、小さいながらも確かな幸せを見つける）」という言葉が一時的に中国の若者の間で流行語となりました。そしてコロナ禍の中で、中国の若者は日常生活の中から「愉悦（喜び）」を得ることの重要性を再認識し、自分を悦（よろこ）ばせる為にお金を使う「悦己消費」は新しい消費動向として注目が集まっています。今回では「悦己消費」トレンドの中で人気がある二つのライフスタイルを紹介します。

1. 「夜間学校」

最近、仕事終わりに学ぶことができる「夜間学校」の検索回数が増えています。中国茶や書道、太極拳等の中国文化を学ぶコースや、ダンス、ヨガ等のフィットネス、アート、料理、フラワーアレンジメント等多種多様な夜間学校が存在しています。夜間学校といっても、若者の間でブームとなっているのは趣味関連のスクールです。趣味を楽しめるだけでなく、自己啓発ができ、生活が豊かになる経験のできる「夜間学校」は、「悦己消費」のひとつとして人気を集めています。

2. 「早C晩A」

「早C晩A」というフレーズがここ数年、流行語となっています。もともとはスキンケアの組み合わせを指していましたが、最近は新たに「朝はコーヒー（coffee）で目覚め、夜はアルコール（Alcohol）で眠る」と別の意味で使われています。そう聞くと、「中国ではこれまでコーヒーもアルコールも飲んでなかったのですか？」と疑問に思うでしょう。実際は中国では「茶文化」が主流、近年は若者を中心にコーヒーブームが急激に沸き起こっています。現在、街角では国内外のコーヒーチェーンや個性的なカフェが林立し、コーヒー習慣が定着しつつあります。またアルコールというと、中国では昔からアルコール度数50度以上の「白酒」等を飲む習慣がありますが、最近の若者がいう「アルコール」とは度数が高い白酒ではなく、ワインやウイスキーのほか果実酒、ソーダ酒などの低アルコール飲料です。「微醺（ほろ酔い）」の感覚を楽しんでいます。美味しいコーヒーとアルコールをたしなむことは現代の若者の延命グッズとまで言われ、「悦己消費」の新しいスタイルとなっています。

若者の間で流行しているこの二つの「悦己消費」形式を紹介しましたが、ほかの趣味関連の消費もたくさんあります。現在の若者は物質的なものだけを追求するのではなく、経験や自分の心を満足させるために消費する傾向がますます強くなり、今後も「悦己消費」が主流になっていくでしょう。

○中国の「端午節」

今年の6月10日に中国伝統的な祭り——「端午節」を迎えました。「端午節」は陰暦5月5日にあたり、とても古い祭日です。

端午節は古代中国の政治家屈原（くつげん）の供養祭で、現在も重要な意味を持つ日です。

端午節に行われる風習にはドラゴンレースや粽（ちまき）食、厄除けなどがありますが、それぞれに屈原と関連した由来があります。

ドラゴンボートとは、細長い形状で龍の頭や尾の装飾を施した手漕ぎ舟です。舵取り1名、太鼓手1名と18～20人の漕手が乗り込みます。ドラゴンボートレースは屈原が身投げして命を落とした際に、その亡骸が魚に食べられてしまわないようにと、人々が舟で川に出て太鼓を鳴らすことで魚を威嚇したことに由来しています。

また、屈原の亡骸を魚が食さないように魚の餌としてもち米を竹筒に詰めて投げ入れたのが粽の発祥であると言われています。

こうして、端午節の日には粽を食べる風習が生まれました。現在、ナツメ入り、豚肉入りの伝統な粽より「ヘルシー」粽が人気になっています。

野菜や果物、キノコ類といったこってり感を和らげる食材を具にした粽や、もち米の代わりに雑穀を使った粽などが新たな選択肢となっています。今年の端午節にコーヒーともち米を組み合わせた「コーヒー粽」やパイナップル入りの甘酸っぱい粽が話題になっています。

日本でも粽がありますね。機会がありましたら、ぜひ中国の粽も試してみてください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年7月号)

2024/6/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2024年4月の国内経済、前月より改善

タイ中央銀行の2024年4月の経済報告書によると、タイ国内経済は前月より改善した。観光客が増えたことを受け、観光を中心とするサービス業が好調だった。民間消費指数は前年同月比2.6%増と、前月の同0.5%増から上昇した。民間投資も同6.3%増と、前月の2.4%減から大幅に改善した。機械・設備を中心とした資本財の輸入が低調だったものの、建設投資は上昇した。鉱工業生産指数は同3.4%増で、2022年9月以来、19カ月ぶりに上昇に転じた。自動車や食品・飲料、エアコン等の生産が伸びた一方で、石油製品や集積回路等の生産は落ち込んだ。

◆ 2024年第1四半期のGDP、1.5%増に鈍化

タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）によると、2024年第1四半期（1～3月）の国内総生産（GDP）成長率は、前年同期比1.5%増と、前四半期の1.7%増から小幅に鈍化した。輸出が低迷したことや、2024年度の予算執行が遅れていること等が響いた。

分野別に見ると、農業は前年同期比3.5%減、非農業は同2.0%増だった。非農業分野のうち、製造業（3.0%減）や、建設業は（17.3%減）等は低迷したが、宿泊・飲食サービス（11.8%増）は好調だった。NESDCは今年のGDP予測を2月時点の2.2～3.2%増から2.0～3.0%増へ下方修正した。

◆ 2024年5月CPI、2カ月連続でプラス

タイ国家経済タイ商務省が発表した2024年5月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比1.54%増と、2カ月連続プラスになった。物価上昇の理由として、燃料が国際相場に伴って値上がりしたほか、野菜・果物は猛暑による出荷量の減少で価格が上昇したことが要因分野別では、食品・飲料が前年同月比1.13%増、非食品が同1.84%増とそれぞれ上昇した。024年1～5月のCPIは前年同期を0.13%下回っている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5
実質GDP成長率	%	-	-	1.4	-	-	1.7	-	-	1.5	-	-
消費者物価上昇率	%	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5	0.2	1.5
失業率	%	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	22,143	24,280	25,476	23,579	23,480	22,792	22,650	23,385	24,961	23,279	-
輸入額	100万ドル	24,121	23,920	23,384	24,411	25,879	21,819	25,408	23,939	26,124	24,920	-
経常収支	100万ドル	-1,071	467	3,154	969	-1,225	2,266	-191	1,965	1,082	-40	-
外貨準備高	10億ドル	220.7	216.9	211.8	210.9	219.1	224.5	221.6	222.4	223.4	221.1	224.3
主要政策金利	%	2.00	2.25	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	34.6	35.0	35.9	36.5	35.4	34.9	35.2	35.9	36.0	36.8	36.6

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年7月号)

2024/6/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向							
		2021年	2022年	2023年	2024年 (1~4月)	前年同月比 1%)	4月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数	569,844	600,839	648,803	193,239	87.9	38,190
	国内販売台数	1,085,861	1,282,876	1,192,883	325,551	80.3	68,477
	輸出台数	1,683,705	1,883,513	1,841,886	518,790	83.0	104,867
	合計台数	3,337,350	3,767,828	3,782,569	1,037,580		172,234
	輸出割合	50.3%	50.0%	48.7%	50.3%		50.3%
二輪	生産台数	251,800	265,069	292,505	82,903	84.8	17,288
	国内販売台数	507,319	584,319	483,275	127,591	71.3	29,450
	輸出台数	759,119	849,388	775,780	210,494	76.1	46,738
	合計台数	1,260,919	1,354,388	1,268,285	393,397		64,026
	輸出割合	60.2%	62.0%	60.4%	53.5%		53.5%
【知事車輸出金額 (百万円)】							
四輪		561,147	619,248	719,992	237,302	108.7	48,147
二輪		75,985	73,729	68,589	23,976	96.4	4,272

出所: タイ工業連盟(ETP)

